資料 7

2026 年度　園芸スイレンの除去計画と今後の課題

ウトロ自然保護官事務所

（1） 次年度除去計画

除去目標

知床五湖は知床国立公園を代表する知床観光の重要な資源であるとともに、知床国立公園の特別保護地区である。地域の手によって本来の自然景観及び生態系を維持し、取り戻すことは、観光資源としての価値を高め、自然再生と利用の好循環となることが期待される。

良好な景観の獲得と生態系の維持回復のため、知床五湖に繁茂する園芸スイレン（以下、「スイレン」とする。）を根絶することを目標とする。当初目標としていた第2期にあたる2025年度は在来種の多い高架木道対岸の区画を対象とし、2026年度は最終年として残る区画での作業を想定していたが、今年度の実施結果を踏まえると、2026年に完全除去を実現することは困難であり、計画の見直しが必要である。また、1湖のみならず2湖と3湖についても対策が急務であるため、短期および中期目標については、以下のように再設定した。2026年度からロボットボートを用いた除去作業及び手法の確立を本格的に行い、除去活動の更なる効率化に向けて取り組む。なお、スイレンの繁茂状況、湖環境及び実施体制等の変化に応じて本目標は適宜改定していくものとする。

長期目標：1湖、2湖、3湖に繁茂するスイレンを根絶させる（2035年）。
中期目標：1湖、2湖、3湖全体でスイレンの葉を低密度状態とする（2030年）。
短期目標：1湖、2湖、3湖のスイレンの葉を前年比で減少に転じさせる。スイレンの浮島（主に1湖）及び根茎（主に2湖、3湖）の除去手法の確立と2湖、3湖のスイレンの拡大防止に取り組む（2027年）。

モニタリング

ドローンによる航空写真の撮影を行う。湖面全体をモニタリングする被度調査を継続し、湖面の変化を記録する。また、2 湖、3 湖での基礎調査を実施する（7 月下旬頃）。

R8 年度スイレン除去体制の整理

種類	回数	概要・備考
少人数除去	計 4 回	・参加者　：請負者・関係者 10 名程度 ・実施体制：2 名一組で 3 班編成し、刈り取り又は運搬作業 ※その他人員は陸上でスイレンを運搬・搬出 ・作業区　：1 湖および 3 湖
イベント除去	計 2 回	・参加者　：地域住民 15 名程度と請負者・関係者 10 名程度 ・実施体制：7 名一組で 3 班編成し、刈り取り・運搬・搬出作業 ・作業区　：1 湖
ロボット除去	計 3 回	・参加者　：請負者のみで対応 ・実施体制：ロボによる刈り取りと請負者での運搬・搬出作業 ・作業区　：1 湖および 3 湖

（２）スイレンの根茎から形成される浮島の発生について

１湖の展望地前に従来からあった浮島（以下、旧浮島）の北側に新たな浮島（以下、新浮島）が発生していることを今春確認している（**写真 1、写真 2**）。これは、弱ったスイレンの根茎が絡み合い湖底の泥と共に浮き上がったもので、すぐに泥が乾いて人が上を歩くことができる密度となり、また周辺からの湿性植物の速やかな加入がみられた。スイレン根茎の浮上による浮島増加が続けば、湖の開水面の減少は更に加速すると思われる。6 月 30 日には試験的に新浮島の一部（5 分の 1 程度）を人力で除去したが、スイレンの根と湖底の泥が絡み合った一部を切り離すことも難航し、腐敗臭と重量もあることから全てを人力で除去するのは難しく、新たな課題となっている。

写真 1　上空からの新浮島の様子（2025 年 7 月 24 日撮影）

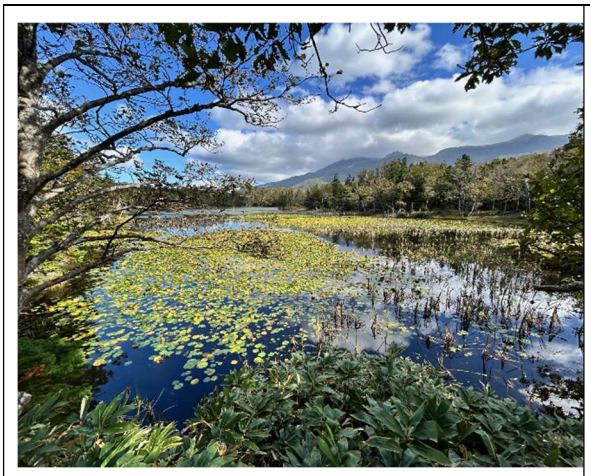
湖面からの様子　（2025 年 6 月 21 日撮影）

除去した新浮島の一部　（2025 年 7 月 4 日撮影）

写真 2　新たに発生した浮島の様子

（３） ３湖におけるスイレンの繁茂について

近年は 1 湖だけでなく、3 湖におけるスイレンの増加も顕著であり、こちらも除去作業の実施が急務である。2024 年 7 月 4 日に 3 湖の被度調査を実施したところ、スイレンの繁茂が急速に進んでいることが確認された（**写真 3**）。次年度は実態を把握するための基礎調査を実施し、除去活動についても対応したい。



遊歩道から見た 3 湖の様子

3 湖上空からの様子（2023 年撮影）

写真 3　3 湖湖面の様子

（４） スイレン除去活動のコンテンツ化

スイレンの根絶を目標とした際、かなりの時間と労力を要すると想定される。そのため、除去活動において観光客や研修等の外部参加者を受入れ、スイレン除去活動及びスイレン（外来種）の移入経緯や除去対策等に関する啓発活動等をネイチャーポジティブツアーとしてコンテンツ化することを検討する。実施にあたっては、ガイド事業所等との連携も想定する。

令和 7 年度にはツアー化に向けた調査・検討を開始しており、令和 8 年度にはモニターツアー実施を検討中である。